

越山若水

2021.9.17

ツキノワグマが木に登り実を食べる時、枝を何本か折り曲げ先の方を尻に敷いて居場所を作る。クマ棚である。この際、枝を本結びで縛ることがあると「熊」(赤羽

正春著)で知り驚いた▼クマ棚は枝のない空間を森に生み、日当たりが良くなって植生が豊かになる。大量の木の実を食べるから種子が糞として散布される上に、一度食べられた種子は発芽しやすくなる。さらに、ヒグマの場合、サケを食べることで食べ残しや糞が森の土壌を肥やすという▼これらクマの生態系への貢献は、大井徹・石川県立天教授の著書「ツキノワグマ」などに教わった。注意を要するのは、こうした自然の仕組みは人間には見えにくいことだ。福井市で行われたオンライン講演で大井さんは「野生動物が絶滅すると、気づかないうちにその恩恵を失ってしまう」と警鐘を鳴らした▼クマの生息分布が広がっている。里山で薪炭林が伐採されなくなり、中山間地の耕作が減り、人が減った。人間の行動の結果が里山にクマを誘引していると大井さんは指摘する▼県鳥獣保護計画検討委は、出没や人身被害が増えているとして、捕殺上限の引き上げを検討していくこととした。やむを得ない判断だろう。ただ、大井さんは、クマとの共存策として保護・排除エリアを明確にするゾーニングを強調する。捕殺に至らないよう、知恵を絞ることが必要だ。